

核戦争防止

兵庫医師の声

第 111 号 2023 年 2 月号

発行 核戦争を防止する
兵庫県医師の会

〒650-0024
神戸市中央区海岸通 1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル
5 F 兵庫県保険医協会内

電話 078 (393) 1807
振替 01130-6-57830

九条の会・兵庫県医師の会 講演会

改憲は「亡国の入り口」

憲法の理念達成のために、科学者は智慧と努力を。反核医師の会も運営に協力する「九条の会・兵庫県医師の会」は、1月14日に「デュアルユース（軍民両用）研究の危険性～科学者としての医師の使命と責任～」を開催し、京都大学名誉教授の福島雅典先生が講演。42人（来場24人、Zoom18人）が参加した。

日本学術会議でデュアルユース研究の危険性について講演されている福島先生は、再生医療やロボットスーツなど医療分野でも新たな技術が生まれており、それらは軍事技術にも転用できるため、研究者はその技術の意味を考える責務があり、哲学のない科学・技術は凶器であると指摘。

ルーズベルト米大統領（当時）に原子爆弾の開発を勧めた物理学者のアインシュタインが、広島・長崎への原爆投下ののちに「戦争には勝ったが平和は勝ち得ていない」と反省し、核兵器廃絶と科学技術の平和利用を訴える「ラッセル＝アインシュタイン宣言」へとつながったことを紹介。医師をはじめとした科学者は人類の未来に重い責任があり、歴史から学ぶことと合わせ、政治を「我がごと」として考えるべきだと訴えた。

昨年12月17日、台湾や尖閣諸島などでの有事に備えることを名目に、これまでの政府見解と異なる「反撃能力」の保持を認める安保関連三文書を閣議決定したことで、政府は憲法を改正



日本国憲法は「理念の高み」で、その実現への努力が必要と語る福島先生

することなく、日本を「戦争をする国」にしてしまったと解説。さらに憲法改正により緊急事態条項が創設されれば、徴兵制ができるなど「亡国の入り口だ」と警鐘を鳴らした。

政府は「国を守るのが政府の責任」というが、福島先生は「安全保障上の脅威」とは「今後確実に衰退する国力」だと指摘。例えば、少子高齢化や労働生産性の低さ、食料自給率・エネルギー自給率の低さなど、立ち向かうべきはこれらの「脅威」であり、憲法を改正することで、安全保障が強化できるというのは妄想であると批判した。

最後に、「日本国憲法は、人類が戦争を重ねてたどり着いた理念の高み」であり、憲法9条は「現実との間に矛盾があるがその矛盾があるゆえに政府と私たちに平和達成のための智慧と努力を説いており、矛盾こそに価値がある」とした。

第 32 回反核医師のつどい in 兵庫

非核「神戸方式」の理念 世界へ

9 月 24 日～25 日に、兵庫反核医師の会、兵庫県保険医協会、兵庫県民主医療機関連合会が主催・企画し「第 32 回核戦争に反対し核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい（反核医師のつどい）」を開催。保険医協会会議室とオンラインで開催し、医師・歯科医師ら 200 人超が参加した。企画の抄録を掲載する。

企画（1）「Don't bank on the bomb?—核兵器にお金を貸すな—」私たちの力で核廃絶は実現可能

ノーベル平和賞を受賞した国際キャンペーン・ICAN の金融セクターコーディネーターで、オランダの NGO・PAX のスージー・スナイダー氏がメインスピーカーとしてオンラインで講演し、核兵器製造企業から資金を引き揚げさせるキャンペーン「Don't bank on the bomb」について紹介した。



スージー氏（左）と松井氏が核兵器から資金を引き揚げさせる取り組みを交流。

世界中の市民団体やメディア、金融機関の報告などをもとにして、核兵器製造企業について PAX がレポートにまとめており、2019 年 1 月から 2021 年 7 月の間に 6851 億ドルが核兵器生産者に提供され、日本でも、三井住友・みずほ・



会場、オンライン合わせて全国から 200 人超が参加し、核兵器廃絶・原発ゼロの実現に向けて取り組みを進めようと確認した

三菱 UFJ など 7 金融機関が核兵器製造企業に投融资していることが明らかになっていることを紹介。核兵器を違法とする核兵器禁止条約の発効を受け、アイルランドの政府系ファンドが核兵器製造企業への投資をやめるなど効果を上げており、市民一人ひとりが利用している金融機関に対し、核兵器に関するポリシーを聞くことが、核廃絶につながると強調した。

近畿反核医師懇談会の松井和夫氏は、2019 年の反核医師のつどい in 京都以来、3 回目となる金融機関調査結果を報告。PAX がレポートで核兵器製造企業に投資していると指摘されている 5 金融機関を含む 7 金融機関から回答があり、核兵器禁止条約について、回答があった金融機関はすべて「重視している」または「認識している」と回答し、条約を意識していることが明らかだとした。

また、PAX レポートに核兵器関連企業に投融资していると記載されている 5 金融機関とも、レポートに記載の事実は把握していたが、事実

○反核医師の声 (3) ○

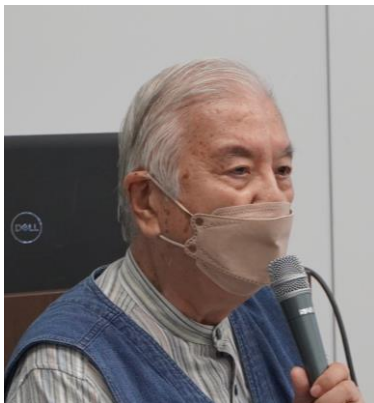
かどうかの回答は拒否していると紹介した。

松井先生は、調査を繰り返すにつれ、核兵器製造企業への投融資に関して、金融機関は禁止の方向で前向きに確実に変化していると報告。特に、ポリシーには反映されていないなど改善点は残るものの、りそな・第一生命は核兵器製造企業への投融資は行わないと明言しており、前向きに取り組んでいるように思われると分析。核兵器が使われる前に「核兵器のない世界」を実現させるため、投資撤収を急ぐ必要があると参加者に行動を訴えた。

企画 (2) 「人類的危機」引き起こさせるな

立命館大学名誉教授の安斎育郎氏は、『核共有』『核武装』『憲法 9 条改憲』で日本を守ることができるのかー非現実的な『現実主義者』たちの主張」と題し講演。

日本維新の会の藤田文武幹事長や安倍晋三元



「核共有」「核抑止」の危険性を訴えた安斎氏

首相などが「核共有」(ニュークリア・シェアリング)の議論を呼びかける動きがあるが、明確に「非核三原則」に違反していると批判。その上、沖縄返還前、沖縄には核が配備され、事

実上「核共有」が行われている状態で、キューバ危機のときはあわや沖縄から核ミサイルが発射されるところだったと紹介した。そのときはすんでのところ回避されたものの、実際に核兵器が使われかねないとした。

「核抑止論」には「いざとなれば使うことを前提としている」「いつ破綻するかわからない」

「核兵器が使われたら、その被害は無制限に広がる」など、危険が多いと指摘。「核抑止論」か

ら脱却し、一刻も早く核兵器を廃絶する他ないと訴えた。

また、ロシアとウクライナの戦争について、ウクライナが NATO に核基地を作ればロシアとしてはキューバ危機の再来であり、これにロシアが反対してきたのにもかかわらずアメリカが勧誘を続けたことなど、アメリカ・ウクライナ両政府がこの戦争の原因を作ってきたと話し、世論は「ロシア・バッシング」に傾いていると警鐘を鳴らした。

企画 (3) 「非核『神戸方式』」

核持ち込みを許さない神戸市民のたたかい学ぶ

原水爆禁止兵庫県協議会事務局長の梶本修史氏が、メインテーマである非核「神戸方式」について講演。非核「神戸方式」の原点は、戦前の川崎・三菱神戸造船所大争議に始まる神戸の港湾を中心とした労働者や市民の運動であると紹介。

戦後、米軍が駐留し、米兵による発砲事件や暴行事件などが市民生活を脅かしていた状況に対抗するため、61 年から「基地なくし静かなクリスマス」を

クリスマス闘争が開始され、米軍の艦船が入港するたびに大規模なデモが行われ、1974 年に全港湾施設が返還されたと述べた。

その後、革新市政の実現により、75 年、神戸市議会で核兵器積載艦艇の神戸港入港拒否決議が行われ、神戸港の管理者である神戸市長が「非



入港艦船に非核証明書を求める非核「神戸方式」を解説する梶本氏

○反核医師の声（4）○

核証明書」の提出を軍艦に義務づける非核「神戸方式」が実現したと解説。結果、47 年間にわたり、米軍艦は一隻も入港していないとした。

政府や米国からは断続的に攻撃が加えられるものの、非核「神戸方式」は世界にも広がり、ニュージーランドで 87 年に核兵器積載艦艇拒否の非核法が制定され、国連 NGO ミレニアム・フォーラムでも最終宣言に盛り込まれたことを紹介。

また、核兵器禁止条約で核兵器の配置、設置、配備の許可の禁止が定められた背景には、非核「神戸方式」があるとし、非核「神戸方式」が世界の核廃絶の流れに大きな影響を与えていると締めくくった。

シンポジウム

「東日本大震災－福島第一原発事故とその後」
原発は人と相いれないすべての被災者の補償を

郷地秀夫・核戦争を防止する兵庫県医師の会代表をコーディネーターに、齋藤紀・福島医療生協理事長、小出裕章・元京都大学原子炉実験所助教、石田仁・元大熊町副町長、広川恵一・兵庫県保険医協会顧問の 4 人が話題提供した。

小出氏は、福島第一原発事故の汚染の大きさを解説。「原子力緊急事態宣言」は今も続いており、事故は終わっていないと強調し、子どもたちを被曝から守るのが、福島第一原発事故を引き起こした大人の責任とした。

原発立地自治体である大熊町の元副町長である石田氏は、将来の健康被害への不安や、さまざまな分断と対立・差別、帰還できないこと・避難指示解除後の対応への不安、加害者側の不誠実な対応などにより被災者は疲れ切っているが、一方で、被災地は風化させられていると語った。

広川氏は、東日本大震災・福島第一原発事故後、被災地訪問を続けてきた経験を紹介。原発立地候補地となった岩手県田野畑村で、住民を



被災者の現状と、命と健康をまもるために何が必要か活発に議論された

まとめて計画を撤回させた「開拓保健婦」の岩見ヒサさんや、原発事故の賠償金で境内に反原発・平和の発信拠点「伝言館」を開いた宝鏡寺の早川篤雄住職など、被災地で生き、闘う人々の姿を紹介した。

齋藤氏は、原発事故という巨大な複合的被害のなかで、福島で臨床医として子どもたちの診療にあたってきた立場から、甲状腺がんの問題をどう考えるかを提言。

各種調査や研究結果から現時点では、福島原発事故による子どもの甲状腺がんの過剰発症は臨床的、疫学的に認められず、今後も罹患率レベルで放射線誘発性甲状腺がんとしての過剰発生は生じ得ない可能性が高いとした。そしてこれから生きる子どもたちを医学的に問題視し調査対象化し続ける社会的理由はなく、心配だからと求められての検査は当然行うが、学校健診

○反核医師の声（5）○

として行うような無症状の子どもへの甲状腺エコー検診は回避するべきではないかと問題提起した。

その後、被曝の影響の評価や甲状腺検査のあり方等について、活発に意見が交わされ、郷地氏は、原発は人と相いれないこと、被災者に寄り添った支援が必要で国と東電が責任をとるべきこと、放射線の影響はデータの不確実さ等現時点ではわからないことも多く、不安な以上検査は医療人の役割で、それは国が保障すべきこと、現場の医療者を支えるのが他地域の医療者の役割であることをまとめとして提起して、確認された。

オプションツアー

神戸港の今を知り平和への思い新たに

「非核『神戸方式』見学ツアー」と題し、神戸港からクルーズ船に乗船し、神戸港の現在の様子を知るツアーが行われ、梶本氏が解説を行



クルーズ船に乗船し、川崎重工の工場などを間近に見た

った。

乗船前に参加者は「非核『神戸方式』の碑」を見学し、海上では修理のために神戸港に停泊している海上自衛隊の潜水艦や、原発を製造している工場などを見ることができた。参加者は熱心に梶本氏の解説に耳を傾けた。

「憲法を生かし、生命、暮らしを守る署名」にご協力をお願いします！

岸田政権が、安保関連三文書の改定を国会の審議も経ずに閣議決定する今、「改憲許すな」の国民世論を広げることがますます重要になっています。命と健康を守る医師・歯科医師の立場から「9条改憲 NO」の声をあげ、9条改憲を許さない世論を高めるため、「憲法を生かし、生命、暮らしを守る署名」への協力を呼びかけます。

すでにご協力いただいた先生もおられるかと思いますが、職員さんや患者さんへのはたらきかけなど、同封のリーフレットと合わせて積極的なご活用をよろしくお願いいたします。同デザインのポスターもご用意しています。

リーフレット・ポスター・署名用紙のご注文は、Tel078-393-1807 有本まで



兵庫県保険医協会 反核・平和部、反核医師の会、文化部共催

参加無料

落語&トークの夕べ

落語家&弁護士が語り継ぐ『大阪空襲』

～空襲の悲劇、そして「防空法」とは…?

日時 6月10日(土) 17:00～19:00 (16:30 開場)

会場 兵庫県保険医協会5階会議室 (神戸市中央区海岸通1丁目2-31 5F 元町駅徒歩7分)

後援 (要請中) 兵庫県 / 神戸市 / 神戸新聞社 / 朝日新聞神戸総局 / 読売新聞神戸総局 / 毎日新聞神戸支局 / 産経新聞社 / サンテレビジョン / ラジオ関西

出演

かつら

はなだんじ

桂 花團治 さん



大阪府豊中市生まれ。1982年2代目桂春蝶に入門。「桂蝶六」を名乗る。2015年「三代目 桂花團治」襲名。大阪府保険医協会発行の『大阪保険医雑誌』に『口(らくご)は賑わいのもと』を連載中。近年は、「戦争を伝えるための落語」の制作にも精力的に取り組んでいる。



おおまえ

おさむ

大前 治 さん

京都市生まれ。大阪大学法学部卒。2002年弁護士登録(大阪弁護士会)。大阪空襲訴訟では戦時中の国策を解明。取材調査や国立公文書館での資料収集を行う。著書に『検証防空法』(共著)、『大阪空襲訴訟は何を残したのか』(同)、『逃げるな、火を消せ—戦時下トンデモ 防空法』など



昨年のロシアのウクライナ侵攻によって世界的に緊張が高まり、ここ日本でも防衛費2倍化が打ち出され、「新しい戦前(タモリ)」とも言われる緊迫した状況が続いています。

今回は、大阪空襲で戦没した2代目花團治のエピソードを題材に創作落語『防空壕』を演じる桂花團治さんと、同じく大阪空襲訴訟の被害者弁護団の大前治弁護士にご登場いただき、お2人の口演(講演)と対談でお過ごしいただきたいと思います。笑いの中にも戦争の悲惨さを伝え、非戦の誓いを新たにしたいものです。ぜひご参加ください(文化部 水間 美宏)

お問い合わせは、TEL: 078-393-1809 兵庫県保険医協会 文化部担当事務局 吉永 まで

【来場参加申込み】 【FAX: 078-393-1802】

お名前

医療機関名

【 】 人で参加する

TEL

FAX

【ZOOM 視聴申込み】

URL または QR コードから前日までに登録ください

<https://onl.sc/6pWtzAf>

